

このところ一層秋らしくなり、農学部キャンパスを包み込んでいく多くの木々の葉が黄色や赤色に変わってきています。農学部緑友会の皆様におかれましてはご健勝にてご



農学部の将来に向けて

農学部長
宇都宮 直樹

活躍のこととお喜び申し上げます。また、皆様方には平素から農学部への多大のご支援、ご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。さて、近畿大学では、世耕弘成新理事長が誕生し、学長におきましては4月から畑博行前学長から塩崎均新学長へと引き継がれました。さまざまな行事や会合における新理事長、新学長のご挨拶などから、近畿大学が新たな方向性を持って動き始めている雰囲気を感じております。農

学部におきましては、これまで関西あるいは近畿の私大において唯一の農学部と唱ってまいりました。しかし、平成27年度から近畿において農学部を新たに開設する私大が出てまいり、農学部を取り巻く環境が大きく変化しようとしています。最近では、皆様のご支援、教職員の頑張りによって本学農学部の教育研究は充実し、受験者数も多くなり、入試の偏差値も高くなってきているところでは、しかし、この競争相手の出現によって、われわれは、これまで以上に緊張感を持って諸々の事に対処しなければならなくなりました。世間では、「農学の復権」という言葉が使われていますが、これは将来の農学部がどうあるべきかを問われていることだと思われまます。農学部におきましても、教職員が協力して、教育研究をさらに充実させるとともに新たな教育研究分野を取り入れるなどの対策に取り組んでまいります。これからの農学部の取り組みにつきまして、皆様方にご理解いただき、いっそうのご支援を賜ることをお願い申し上げます。

農学部緑友会の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。この10月から農業生産科学科の学科長を再度拝命しました。微力ですが精一杯務めさせていただきますので、ご指導、ご助言よろしくお願い申し上げます。まず先生方の異動につきましてご報告させていただきます。農業政策学研究室の准教



学科の近況

農業生産科学科
学科長
矢野 栄二

卒業生の皆様におかれましては、元氣にお過ごしのこととお慶び申し上げます。教員の動向についてご紹介します。平成24年3月、海洋分子微生物学研究室の教授として本学科の教育・研究にご尽力いただいた中山昭彦先生が定年退職されました。それに伴い同研究室を廃止し、水族環境学研究室の研究分野を従来よりも広げることとなり、同年4月に谷口亮人先生が採用されました。谷口先生は30歳代の気鋭の研究者で、海洋細菌群の環境動態解析を通して、海洋環境における物質循環メカニズムを研究しており、環境保全型養殖への貢献が期待されています。また、水産生物

学研究室の小林徹先生が教授に昇任されました。淡水魚・海産養殖集団における親魚管理解析や先端解析技術を駆使した細胞工学開発などで大きな業績を挙げておられます。



ハーブソルト作成風景

本学科の教育・研究がさらに向上するものと確信しています。今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



緑友会会長挨拶

「卒業生の皆様、如何お過ごしでしょうか」

緑友会会長

高谷 政広

酷暑で電力消費等エネルギー需要が逼迫しました。そのようなかで、夏季ロンドンオリムピック大会が開催され、皆様もテレビの前にくぎ付けにされたことと存じます。わが近畿大学の校友、在校生、職員の方々もこの大会で大活躍をされ、大いに誇らしく、またピリッと鼓舞され、さらに室内を風がサアッと吹き抜けるさわやかな気分が浸れ、印象深いひと夏を過ごすことが出来たのではないのでしょうか。近畿大学同窓生は46万人を

超え、農学部緑友会同窓の方々も間もなく2万5千人に達します。社会人として仕事やスポーツなど経済、文化の面で大いに活躍されておられることは、周知のことですが、在校生とのつながりも大切なことでもあります。是非、緑豊かな奈良キャンパスに「Coming Back」しついでに、在学生との交流を深め、学生に将来の社会人・職業人としての自覚をしっかりと植えつけていただきたいと思います。5月には、世耕弘成理

事長が農学部に来られ色々とお話を致しました。私はこの夏、校友会静岡支部の同窓会に参加させていただき、中部電力浜岡原発視察のバス中で本学原子力研究所長伊藤先生の講話を聴講すると共に、事務局や各支部の方々と交流を通じ、同窓の良さや意義を再認識し、正に「温故知新」を実感しました。

引き続き皆様には、緑友会の活動に御支援とご協力をお願い申し上げます。

ただきましたが、さらに2年間農学部発展のために微力ではございますが、精一杯努力をさせていただきますのでどうかよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様方のご健勝をお祈りいたします。

授として勤務いただいた津國実先生がこの3月末で退職されました。長い間有難うございました。また植物・人間関係学研究室に助教として富研一先生が着任されました。花のアロマが人間に与える生理的影響について研究されており、まさに園芸療法を科学的に評価する基礎となる研究です。今後の活躍が期待されています。「園芸療法士」および「アグリビジネスマイスター」の資格取得のコースも2年目に入って実習科目も始まり、学生も益々意欲的に取り組んでいます。卒業生の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

水産学
学科長
塚正 泰之

原稿募集
会員の皆様から原稿を募集します。題は自由です。緑友会事務局又は研究室の先生宛に御送付下さい。

緑友会名簿訂正(変更)届

氏名 所属 年 度
所 研究室
現 住 所
住 所
社 名 住 所
動 務 先

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先: 〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp



第17号
発行所
近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/



応用生命化学科

学科長 松田 一彦



卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。これまで2年間応用生命化学科長として微力ながら農学部発展のために尽力させていただきました。幸いにも、今、農学部に対して社会から高いニーズがあります。そのニーズに十分応えるだけの研究・教育システムを構築するために、このたび再度応用生命化学科長を拝命することになりました。本学科では、平成24年の春に山下光明先生を迎える一方、倉田博志先生が講師に昇格しました。また、入試では志願者を増やし、有能な新入生を確保することができました。このように、応用生命化学科には明るい日差しがさしておりますが、優れた人材を社会

に送り出すことができなければ、評価は容易に下がります。本学科のステイタスを堅持するためには、卒業生の皆様との太いつながりが不可欠です。どうか、私たちに熱いご声援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

食品栄養学科

学科長 上嶋 繁



卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。本年の10月付で、食品栄養学科の学科長を拝命いたしました。今後ともよろしくご助言、ご指導の程、お願い申し上げます。さて、管理栄養士養成施設設置申請や運営に多大なご尽力をいただきました村上哲男特任教授が定年退職され、近畿大学名誉教授の称号が授与されました。代

環境管理学科

学科長 坂上 吉一



卒業生の皆様元気に活躍されているでしょうか。環境管理学科が誕生して今年で8年目をむかえております。早いもので、昨年の4月に3期生が、今年の4月に4期生が社会に出られ、各分野で頑張っていることと思っております。環境管理学科は、現代GPの里山修復事業が終了し2年が経過しましたが、引き続き生態学的並びに科学的な見知で里山等の自然環境の保全・管理を中心に、日々発展をとげ

わって米谷俊先生が栄養機能学研究室の教授として着任されました。米谷先生は食品関連企業の研究所所長として長年活躍してこられ、今後は本学科で実学教育を実践して頂けるものと期待しております。一方、平成16年度より主に臨床栄養学の講義・実習を担当してこられました臨床栄養学研究室の成川輝明先生が教授に昇格されましたが、本年10月に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。本年度の管理栄養士国家試験の合格率は97.1%であり、管理栄養士養成課程(新卒)の合格率である91.6%を上回っております。今後も社会に貢献できる人材を育成し輩出すべく、精進いたす所存でございます。緑友会の皆様の変わりぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

ております。里山連続講座の継続的な開催も、その活動の一環です。また、日本だけにとらわれずに、海外にも広く視野を向けた活動も展開しております。学生に対する海外研修もその活動の一つです。今年度の海外研修は、9月3日から21名の学生(2年生、他)がタイに8日間、また9月2日から28名の学生(2年生)が10日間フィリピンに行き、自然環境保全の大切さを直接肌で感じたことと思っております。なお、10月初旬に学内で報告会が開催され、有意義な時間が持たれました。

バイオサイエンス学科

学科長 深溝 慶



卒業生の皆さん、お元気ですか?平成元年に奈良にキャ

卒業生の皆様元気に活躍されているでしょうか。環境管理学科が誕生して今年で8年目をむかえております。早いもので、昨年の4月に3期生が、今年の4月に4期生が社会に出られ、各分野で頑張っていることと思っております。環境管理学科は、現代GPの里山修復事業が終了し2年が経過しましたが、引き続き生態学的並びに科学的な見知で里山等の自然環境の保全・管理を中心に、日々発展をとげ

6研究室、15名体制(環境生態学・櫻谷、久保、北川;環境化学・坂上、森;生態工学・若月、奥村;国際開発・環境学・八丁、松野、河内;環境政策学・池上、前潟、鶴田)となっております。なお、来

ンパスに移転して以来、二十数年が過ぎました。研究棟の壁もくすんでいましたので、昨年度より少しずつ外装の塗り替えが進められています。研究棟のトイレもすべてではありませんがリフォームされ、ウォッシュレット付きのきれいなトイレになっております。第二共同研究棟も出来上がり、我が農学部キャンパスは新たなステージへと移り変わっているような気がします。バイオサイエンス学科も創設以来8年が経ち、研究室の体制は創設時と同様に、動物、植物、微生物、バイオマテリアルの四つの分野を基軸として精力的に研究が進められています。が、スタッフのメンバーにはいくらか移り変わりがあります。十九年には山本兼由先生がご栄転なされ、代わりに加藤明宣先生が着任されました。また、二十年にはバイオ分子化学研究室に大沼貴之先生が助教として着任され、二十四年に講師に昇格されました。さらに、二十二年には岡本忠先生が定年で退職になり、代わりに川崎努先生が教授として着任されました。現在十五名のスタッフで、基礎研究における国際的な競争力を維持しながらも、実学の面でも食品産業や医薬品業界に何らかの貢献を行おうと教員一同頑張っております。卒業生の皆さん、是非、一度お立ち寄りください。



博士課程

第2回 緑友会賞受賞者一覧

Table with 3 columns: 専攻, 氏名, テーマ. Lists award winners for the 2nd Green Friends Award.

Table with 3 columns: 専攻, 氏名, テーマ. Lists award winners for the 2nd Green Friends Award (continued).

進化し続ける農学研究科

大学院農学研究科長 江口 充



農学部緑友会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。現在、農学研究科には196名の院生が在籍しております。平成20年に採択された文部科学省のグローバルOEは平成24年度で終了しますが、平成23年からは、私立大学戦略的基盤形成支援事業(5年間)に採択されました。

いづれも文部科学省の大学院高度化支援事業です。この様に連続して採択されている事は、農学研究科の活力を示す証左と言えるかと思えます。おかげさまで、緑友会にサポートして頂いております緑友会賞も平成23年度で第2回目となりました。これは大学院生達の大きな励みになっております。心より感謝申し上げます。

農学研究科大学院担当教員はこれからも近畿大学農学部の研究推進力の中核を担うべく、大学院生諸君とともに日々研鑽を積んでまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

農学部緑友会会員の皆様には、日頃のご活躍とますますのご発展をお喜び申し上げます。また平素は、近畿大学農学部の発展に多大なるご協力をいただき、しばし学生時代を思いだしていただければ幸いです。緑友会の皆様には足をお運びいただき、誠にありがとうございます。最後に、緑友会会員の皆様

農学部の近況

事務長 佐野 真紀恵



の間、学科・研究科の教育推進に邁進してまいりました。又、教育施設の充実も図り、より一層の学習・研究環境の充実を図っております。入学・卒業に際しましても、偏差値の向上により学力の優秀な入学生を得、就職状況も90%強の内定を貰い、卒業式を迎えるという好条件を維持しております。秋には、恒例の農学部祭が行われます。緑友会の皆様には足をお運びいただき、誠にありがとうございます。

最後に、緑友会会員の皆様お祈りし、今後ともご協力、ご助言を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

新任の挨拶

農業生産科植物・人間関係学研究室
助教 富 研一

緑友会会員の皆様、はじめまして。私は本年度4月より農業生産科植物・人間関係学研究室に助教として奉職することになりました。富研一と申します。私はこの春まで京都大学大学院農学研究科で、植物香気成分の分析と、それらがヒトに与える効果について研究を行ってきました。エピソードが不十分なまま趣味が先行している分野ですので、科学的評価法の確立や、アロマセラピー効果に関するキー成分組成の決定を目標に活動しました。現在は「植物をヒトの暮らしにどのように活かしていくか」をテーマとし、引き続き植物がもたらす「癒し」に関する研究を多角的に進めています。

趣味はボランティアでの音楽活動（ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノの演奏）です。興味だけでなく、研究の方でもより多くのヒトに元気づけていたただけのように尽力したいと存じます。まだまだ至らぬ点の多い不肖の輩ではございますが、何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

水産学 水族環境学研究室
助教 谷口 亮人

本年4月より水産学水産環境学研究室に着任いたしました。谷口亮人と申します。広島大学を卒業後、広島大学大学院で博士（農学）を取得しました。これまでに東京大学海洋研究所（現・大気海洋研究所）特任研究員、近畿大学グローバルCOE博士研究員として微生物海洋学を専門とし、様々な海域にいる海洋微

生物の多様性とその機能などを研究をしてまいりました。現在は、これまでに培った技術や知識を水産学に応用し、養殖環境を健全に維持する海洋微生物に関する研究を中心に行っております。

近畿大学は、我が国の海水魚養殖の先駆者として産業界に大きく貢献しており、産業界模での養殖施設を有する大学です。このような大学は他に少なく、水産学研究をするのに非常に恵まれた環境であると考えております。至らぬ点が多くございますが、歴史ある緑友会に微力ながら貢献していく所存ですので、会員の皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

応用生命化学科・生物環境学研究室
講師 山下 光明

本年四月一日より応用生命化学科・生物環境学研究室に講師として赴任いたしました。山下光明と申します。京都大学大学院薬学研究科にて博士（薬学）の学位を取得後、高崎健康福祉大学薬学部・助教を経て、現在に至っております。これまでの有機合成化学を基盤として、天然物由来成分等の合成法や供給法の開発などを行ってきました。特に、抗がん剤の開発につながるような化合物群の研究に注力してまいりました。本学は、NMR、MSなどの分析機器、研究設備も整っており、また研究を担ってくれる優秀な大学院生もたくさんおり、大変恵まれた環境に赴任できたと感じております。今後は、学生たちの教育を主眼に置きつつ、科学の進歩と社会に貢献できるような人材と基礎研究の推進に努めてまいりたいと思っております。まだまだ未熟者ゆえ、皆様方のご指導ご鞭撻を頂きますよう、宜しくお願ひ致します。

食品栄養学 栄養機能学研究室
教授 米谷 俊

本年4月より食品栄養学栄養機能学研究室に着任しました。米谷俊（こめたに たかし）と申します。これまで30年余り、食品企業で機能性素材・機能性食品の研究開発に携わり、いくつかの新商品を世に出すと共に、研究所の運営を行って参りました（この研究背景には、日本が世界に先駆けて提唱した「食品の体調節機能（第3次機能）」や東洋で古くから言われている「医食同源」の考え方があります）。今後は、企業人としての経験を活かし、本学の建学の精神「実学教育」に則り、「食を通じて人々の健康の維持向上に貢献すること」を目標に、食品や食品成分が持つ機能性を引き出し実用化する研究を進めます。また、大学の使命は、「人材育成と研究成果の社会への還元」と心得、卒業研究や大学院での研究を通じて、+αの実力を身につけた管理栄養士を育成すること、その成果を実用化に向けて推進することを目指します。会員の皆様方、ご指導ご鞭撻を心よりお願ひ致します。

教養・基礎教育部門
教授 木村 正則

本年4月に教養・基礎教育部門の教授として着任いたしました。木村正則と申します。米国テキサス大学オースティン校で博士の学位を取得後、熊本大学大学院社会文化科学研究科教授などを歴任してまいりました。農学部では外国語科目の英語を担当しております。

専門は外国語教育学ですが、時間を見つけてはできるだけ幅広いジャンルの読み物を読むように努めております。先日も、政治記者である橋本五

郎著の「総理の器量」という本を読んでおりました。その中で、印象的だったのは、小泉元総理大臣とブッシュ前大統領の話で、当時の日米間の経済問題が二人の極めて個人的な信頼関係によって政治的に緩和されたという部分でした。「何を話すか」ではなく

「誰が話すか」が重要なことは万国共通です。その「誰か」になれるような魅力的な学生を一人でも多く世に送り出せるよう微力ながらお手伝いさせていたたくつもりです。ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

前農業生産学 津國 実

緑友会の皆様お元気でご活躍のことと思います。農学部は11年間お世話になりましたが、本年3月末をもちまして退職致しました。定年の数年前ですが、片耳が具合悪くなったので決断した次第です。それから約半年、仕事をしていたのに毎日が慌しくアツツという間に過ぎて行きます。退職中に教育・研究に取り組めたのは、学生諸君と教職員の方々のご協力があってからだと有難く感じております。テレビでときどき近大農学部が関係する取組話題を見ると、冷静客観的にみて素晴らしい大学だと思えます。卒業生の皆様も同様に感じている方が多いのではないのでしょうか。農水産業、食物や環境に関わる点がマスコミで日々採り上げられることは、過去

「誰が話すか」が重要なことは万国共通です。その「誰か」になれるような魅力的な学生を一人でも多く世に送り出せるよう微力ながらお手伝いさせていたたくつもりです。ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

学期が始まり、最初の卒業研究生の方々には実験室や研究室の整理をしながらの実験開始でした。

当時は、実験室にはクーラーがなく最上階でしたから真夏はそれはそれは暑く大変でしたが、その様な環境下でも随分熱心に夜遅くまで実験を頑張った方も多く、午後十時以降は北駐車場へのエレベーターが使用できず、随分遠回りをして真暗な夜中駐車場へ急いだことも少し怖い懐かしい思い出です。

卒業研究の課題が深海性魚類腸内細菌相の解明の方々は内海先生（後には松田先生）の研究室のDNAシークエンサを使わせて頂き、好細菌酵素の結晶化が課題の方々はX線結晶解析装置を使わせて頂くため豊中市の阪大理学部に随分通いましたね。特に、これら卒業研究の大変だった実験の経験が何らかの形で現在の皆様プラスの作用をしていれば、これほど嬉しいことはありません。

私も今年で馬齢を重ねること六十七歳！今、来し方を振り返ると、六十七年といえども過ぎ去ってしまった。正に「一炊の夢」。卒業生の方々もいずれ何時か第一線を退かれるときが来ますが、その時振り返った過去が、自分でそれぞれ心底納得出来る「一炊の夢」でありますように！

そのためにも、卒業生の皆様の益々のご健勝、ご活躍、そしてなによりもご幸運を最後にお祈り申し上げます。

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫

前農業化学科 寺下 隆夫



退職のご挨拶

前農業生産学 津國 実

緑友会の皆様お元気でご活躍のことと思います。農学部は11年間お世話になりましたが、本年3月末をもちまして退職致しました。定年の数年前ですが、片耳が具合悪くなったので決断した次第です。それから約半年、仕事をしていたのに毎日が慌しくアツツという間に過ぎて行きます。退職中に教育・研究に取り組めたのは、学生諸君と教職員の方々のご協力があってからだと有難く感じております。テレビでときどき近大農学部が関係する取組話題を見ると、冷静客観的にみて素晴らしい大学だと思えます。卒業生の皆様も同様に感じている方が多いのではないのでしょうか。農水産業、食物や環境に関わる点がマスコミで日々採り上げられることは、過去

退職のご挨拶

前水産学 中山 昭彦

納得出来る「一炊の夢」を！卒業生の皆様、お元気ですか？毎日楽しくお過ごしでしょうか？

退職のご挨拶

前農業化学科 寺下 隆夫

近畿大学農学部を卒業し、そのまま農学部副手として大

退職のご挨拶

前教養・基礎教育部門 三浦 良邦

最後にになりましたが、これまでのご厚情にお礼を申し上げますとともに、皆様方のご多幸と一層のご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

前食品栄養学 村上 哲男

平成24年3月、近畿大学を定年退職いたしました。私が近畿大学に入学した昭和30年代は日本が高度成長期に入っていた頃で、この時期（昭和37年）が近畿大学の50年のスタートになりました。「夏草や兵どもが夢のあと」の句のごとく、

50年を振り返って

前食品栄養学 村上 哲男

平成24年3月、近畿大学を定年退職いたしました。私が近畿大学に入学した昭和30年代は日本が高度成長期に入っていた頃で、この時期（昭和37年）が近畿大学の50年のスタートになりました。「夏草や兵どもが夢のあと」の句のごとく、

退職のご挨拶

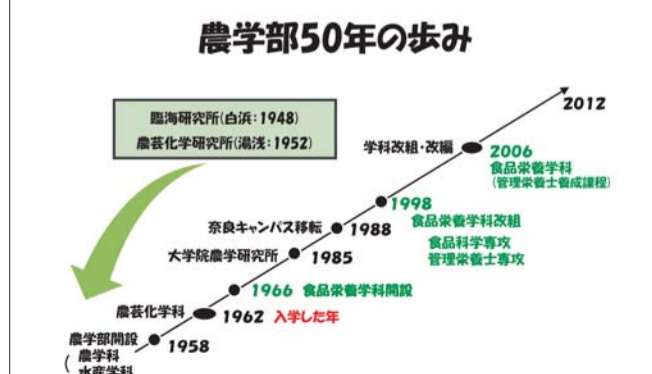
前食品栄養学 村上 哲男

平成24年3月、近畿大学を定年退職いたしました。私が近畿大学に入学した昭和30年代は日本が高度成長期に入っていた頃で、この時期（昭和37年）が近畿大学の50年のスタートになりました。「夏草や兵どもが夢のあと」の句のごとく、

退職のご挨拶

前食品栄養学 村上 哲男

平成24年3月、近畿大学を定年退職いたしました。私が近畿大学に入学した昭和30年代は日本が高度成長期に入っていた頃で、この時期（昭和37年）が近畿大学の50年のスタートになりました。「夏草や兵どもが夢のあと」の句のごとく、



新入生の夢

将来の夢

農業生産学科一回生
伊東 ちひろ

私は家庭菜園が趣味の両親に影響され、小さい頃から植物を育てることが好きでした。家で栽培した安全で新鮮でおいしい野菜を食べることは私にとって、あたりまえの幸せでした。しかし今日、食についての問題が世界中で尽きることはありません。その現状を知っていく度、自分がどれほど恵まれた生活を送っているのか改めて気づかされます。私は一人でも多くの人に、家で栽培したような温かみのあるおいしい野菜を食べしてほしいと思っています。農家になるということを考えたときもありましたが今は種苗会社

に勤めることを考えています。自分一人が野菜をつくるより、ニーズに合った種や苗をたくさん作り出して多くの農家の人たちに生産してもらった方が私の思う野菜が世間にたくさん出回るのではないかと考えたからです。まだまだ知識や考えが浅い部分だらけだと痛感していますが目標達成の為、大学の4年間で少しでも成長できたらと思います。

「新入生の夢」

水産学科一回生
瀬部 孝太

私の夢は、栽培漁業により魚類を生産し日本の食文化を守ることです。この夢を実現するために私は、近畿大学

の4年間を存分に活用したいと考えています。きっかけは、趣味である海釣りを通して水産業に興味を持ったこと、幼いころから魚を食べることが好きだったことです。その気持ちから水産系高校に進学し、漁業体験や漁業者との交流などの実習を通して知識を蓄けてきました。実習の中で日本の水産物自給率の低さから魚がいなくなる可能性があることを知り、興味のある栽培漁業によってこの問題を解決したいと考えているようになりました。

「私の夢」

応用生命化学科一回生
松本 啓吾

私は子供の頃から生物図鑑が大好きで、将来の夢は生物学者になることだった。生まれてつき障害を持つ私は大学受験の際、自宅から通える距離の大学を考えていた。そんな時、偶然見た近畿大学農学部のパフレットの応用生命化学科のページで、骨粗鬆症を酵素の力で治療する研究を行っている教授がいることを知った。骨粗鬆症と私の障害とは酷似している点が多数存在する。この研究室で学べば、自身の病を治せるのではと考えた私に迷いはなかった。

現在私は、学校の近くで一人暮らしをしている。自宅から通うには遠過ぎるので必然的にこうなったのだが後悔はしていない。いつも私を気に



緑友会主催 近畿大学食品栄養学科 新入生歓迎会 平成24年4月15日 於 薬師寺

第一希望の大学ではなかったのですが、私はもともと生き物と関わる大学へ進学したかった為、農学部環境管理学科に来てとても良かったと思っています。

私は将来動物園か水族館の飼育員になる夢があります。この夢を持ったのは高校2年生の進路選択の時です。進路を悩んだ時、自分の本当にやりたい事を見つけた。昔から動物が好きで、動物と近くに接することが出来て来場したお客さんを笑顔にできる飼育員になれたら良いなと思いました。

近畿大学農学部では学芸員の資格を取ることが出来ます。入学前、ある動物園のHPの同じ学科の先輩が学芸員の実習報告が掲載されていたのを見ました。実際飼育員の体験をした先輩の体験記を見て、飼育員の大変さなどなかなか知ることが出来ないことを知ることができました。そして飼育員になる夢も大きくなり学芸員の資格のことを知り学芸員の資格を取れば自分の夢に一歩近づくことが出来ると思いました。卒業するまでその夢を持ち続け、夢を叶える為に在学中こつこつ努力しようと思っています。

自分の夢

バイオサイエンス学科一回生
西元 里美

私には興味のあることはあっても、それをどう活かしている仕組みを知らなければ知るほど、新鮮な驚きがあり、より深く

て将来やりたいことに繋げるかなど自分の夢がまだ見つかっていません。でも、生物が生きていくためや子孫を残すために生体内で行われている現象のメカニズムだとか、遺伝子レベルでそういった現象を扱う分野にとても興味があったので、遺伝子を扱う研究室が多いバイオサイエンス学科に入学しました。私たちの生体内で行われている反応のすべては本当に不思議で、自分の体の中はこんなにも上手く出来ているのかと感嘆することも多く、生物が生きている仕組みを知らなければ知るほど、新鮮な驚きがあり、より深く



向上心
食品栄養学科一回生
吉良 礼奈

私は高校の頃から、自分は何に興味があるのか、どんな職業に就きたいのかということ

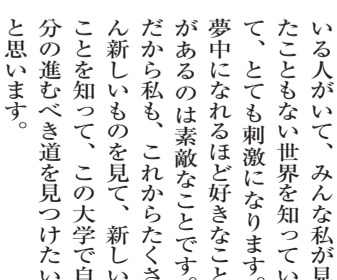
とを模索してきました。たとえば、家のベランダで小さな家庭菜園をするのが好きで農学に興味を持ち、海外旅行が楽しく英語が好きになったり、生物の勉強から医学分野を学びたいと思ったりと、興味のある分野が多い私は、進路を決めるのにすごく迷いました。しかし、食品栄養学科は私の興味のある分野をたくさん網羅しており、わたしの進路にぴったりだと思

て病院で働こうと思っ

た。将来は、臨床栄養士として病院で働こうと思っ

た。私は1年浪人を経験し近畿大学農学部に入学しました。

私は1年浪人を経験し近畿大学農学部に入学しました。



卒業生 & 職場紹介

職場での喜び

農業生産学科 (平成22年度卒)
藤田 有司

現在、京都府南丹市にある京都府立農芸高等学校で非常勤講師として勤務しています。生徒数は260名。1年生は入り募集で農業学科群として入学し、2年生から農産バイ

オ科、環境緑地科にそれぞれ分かれて専門的な勉強をしています。主に1年生の農業科



この道具だけでは誤差が生じて、きれいな三角形にはなりません。生徒は協力して一生懸命に実習をしていました。授業後には、ほとんどの生徒が「面白い」、「もう一度やってみたい」と反応がありました。実習を振り返り、討論している生徒の反応は想定していた以上でした。生徒の素直な言葉を聞いてとても感動しました。このような生徒の成長の変化に直面できる、やりがいのある仕事です。

環境サービスという会社で働いています。食品工場や医薬品など各得意先工場での問題点(クレーム)が減らない、検査をしないと菌が検出される、虫が多い等)に対し、結果の分析・解析、改善策の立案、改善実施、効果の確認を行い工場を健康な状態で維持するのが主な仕事です。私が行っている業務は、書類の作成やお客様からの電話・メールでの問い合わせ対応、微生物のサンプリング調査補佐等です。働き始めて5年目を迎えますが、もともと形のないサービスをご提供する仕事であり、また工場のリスクには人間の病気を同じ目に見えないものがたくさんあるため、今も悪戦苦闘する日々です。

しかし、「私の仕事の先にたくさんの方々がいて、その中には、私の親兄弟もいる」と思っていると、非常にやりがいを感じています。また、現在は資格の取得に励んでいます。何か一つでも得意とする分野があれば、この仕事は任せよう、と言ってもらえるかもしれないからです。

こう考えるようになったのは、学生時代に専門分野の免許を一つもとらなかつた事を後悔したからです。その時与られた環境で、その時にしかできない事をやるだけやりたいと今は思っています。いつでもチャンスがあるかわかりませんが、常にアンテナをはり、自分を高める努力を怠らないことが、新入社員には求められているのではないかと思います。一人前のSEになれるよう、一歩一歩成長していきたいです。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。



現在、京都府南丹市にある京都府立農芸高等学校で非常勤講師として勤務しています。生徒数は260名。1年生は入り募集で農業学科群として入学し、2年生から農産バイ

オ科、環境緑地科にそれぞれ分かれて専門的な勉強をしています。主に1年生の農業科

この道具だけでは誤差が生じて、きれいな三角形にはなりません。生徒は協力して一生懸命に実習をしていました。授業後には、ほとんどの生徒が「面白い」、「もう一度やってみたい」と反応がありました。実習を振り返り、討論している生徒の反応は想定していた以上でした。生徒の素直な言葉を聞いてとても感動しました。このような生徒の成長の変化に直面できる、やりがいのある仕事です。

環境サービスという会社で働いています。食品工場や医薬品など各得意先工場での問題点(クレーム)が減らない、検査をしないと菌が検出される、虫が多い等)に対し、結果の分析・解析、改善策の立案、改善実施、効果の確認を行い工場を健康な状態で維持するのが主な仕事です。私が行っている業務は、書類の作成やお客様からの電話・メールでの問い合わせ対応、微生物のサンプリング調査補佐等です。働き始めて5年目を迎えますが、もともと形のないサービスをご提供する仕事であり、また工場のリスクには人間の病気を同じ目に見えないものがたくさんあるため、今も悪戦苦闘する日々です。

しかし、「私の仕事の先にたくさんの方々がいて、その中には、私の親兄弟もいる」と思っていると、非常にやりがいを感じています。また、現在は資格の取得に励んでいます。何か一つでも得意とする分野があれば、この仕事は任せよう、と言ってもらえるかもしれないからです。

こう考えるようになったのは、学生時代に専門分野の免許を一つもとらなかつた事を後悔したからです。その時与られた環境で、その時にしかできない事をやるだけやりたいと今は思っています。いつでもチャンスがあるかわかりませんが、常にアンテナをはり、自分を高める努力を怠らないことが、新入社員には求められているのではないかと思います。一人前のSEになれるよう、一歩一歩成長していきたいです。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

社会人としての成長目標

水産学科 (平成23年度卒)
国本 夏子

私は現在、SE(システムエンジニア)としてIT関連の企業に勤めています。この業界で意識しておきたいのは、現代社会に敏感でなければいけないこと。お客様の要望が日々変化するため

「また今回のメンバーでお願います」と言って頂けることが、この仕事ならではのやり

環境サービスという会社で働いています。食品工場や医薬品など各得意先工場での問題点(クレーム)が減らない、検査をしないと菌が検出される、虫が多い等)に対し、結果の分析・解析、改善策の立案、改善実施、効果の確認を行い工場を健康な状態で維持するのが主な仕事です。私が行っている業務は、書類の作成やお客様からの電話・メールでの問い合わせ対応、微生物のサンプリング調査補佐等です。働き始めて5年目を迎えますが、もともと形のないサービスをご提供する仕事であり、また工場のリスクには人間の病気を同じ目に見えないものがたくさんあるため、今も悪戦苦闘する日々です。

しかし、「私の仕事の先にたくさんの方々がいて、その中には、私の親兄弟もいる」と思っていると、非常にやりがいを感じています。また、現在は資格の取得に励んでいます。何か一つでも得意とする分野があれば、この仕事は任せよう、と言ってもらえるかもしれないからです。

こう考えるようになったのは、学生時代に専門分野の免許を一つもとらなかつた事を後悔したからです。その時与られた環境で、その時にしかできない事をやるだけやりたいと今は思っています。いつでもチャンスがあるかわかりませんが、常にアンテナをはり、自分を高める努力を怠らないことが、新入社員には求められているのではないかと思います。一人前のSEになれるよう、一歩一歩成長していきたいです。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

元気な管理栄養士を!

食品栄養学科 (平成10年度卒)
岡本 尚子

私は現在、愛知県にある大学に勤務し、助教として公衆栄養学分野の講義及び実習を担当しています。

私が勤務している大学は、「健康づくりのための栄養指

導者として、豊かな人間性と栄養・運動に関する高度な専門知識を身につけ、すべての人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成」という教育目標のもと、栄養面から健康づくりをサポートできる管理栄養士の養成に力を注いでいます。当大学のカリキュラムの特徴は、健康運動に強い管理栄養士、スポーツ栄養に強い管理栄養士、臨床での栄養管理に強い管理栄養士、食育に強い管理栄養士の養成を目指していることです。1年生からスポーツ栄養、臨床栄養、食育の専修コースに分かれて、高度な知識と実践力を身につけることができます。里山に関する知識は

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

生き物を見る仕事

環境管理学科 (平成24年度卒)
水出 千尋

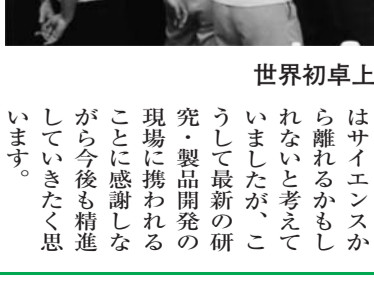
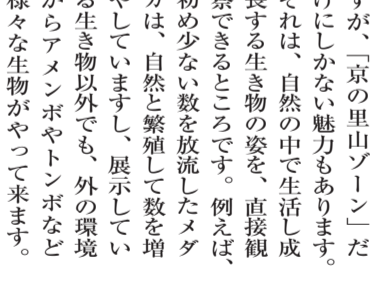
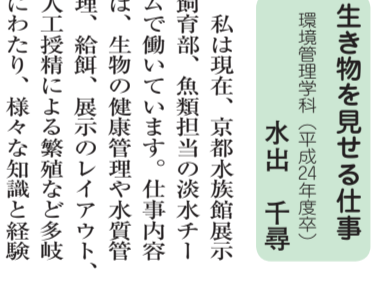
私は現在、京都水族館展示飼育部、魚類担当の淡水チームで働いています。仕事内容は、生物の健康管理や水質管理、給餌、展示のレイアウト、人工授精による繁殖など多岐にわたる、様々な知識と経験

を要するので、先輩方の手ほどきを受けながら日々努力しています。大学時代には、水圏生態学研究室で棚田の研究を行い、棚田やその周辺環境に生息する生物を調査していました。実際に自分たちで稲を栽培し、農事歴を踏まえて行った調査にはとても関心を持って、充実した研究生活を送ることができました。そしてその知識や経験は、今の仕事でも生かされています。というのも、当水族館には日本の原風景を再現した「京の里山ゾーン」という展示があり、そこが私の主な担当ゾーンになったからです。里山に関する知識は

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。

私が当大学に勤務して初めに感じたことは、とにかく学生が素直で元気!ということ。他の学科の学生であっても、学内で喧嘩や大声で挨拶をします。初めて会う人でも挨拶は欠かせません。勤務して1年目の入学式で、学長が式辞の中で「おっしゃった『この大学の最大の誇りは、『日本一、元気な大学』であること』です」という一言が印象的でした。当大学でお世話になり3年目。私の研究室にはこのような元気なゼミ生が3・4年合わせて9名います。大きな壁にぶつかっては少しずつ日々成長している学生とともに、私自身も前進していけたらと思っています。



世界初卓上NMRの勉強会

先は、大学、警察などを含む官庁、そして民間企業の研究所です。また、友人やお世話になった先生方と仕事で関わることもあり、出逢いと繋がりに感謝しております。就職活動中にはサイエンスから離れるかもしれないと考えていましたが、こうして最新の研究・製品開発の現場に携われることに感謝しながら今後も精進していきたいと思

サイエンスに携われる喜び

岸 靖之

私は現在、分析機器の総合商社株式会社エス・ティ・ジャパンでセールスエンジニアとして、西日本を飛び回る日々を過ごしています。気が

サイエンスに携われる喜び

岸 靖之

私は現在、分析機器の総合商社株式会社エス・ティ・ジャパンでセールスエンジニアとして、西日本を飛び回る日々を過ごしています。気が

サイエンスに携われる喜び

岸 靖之

私は現在、分析機器の総合商社株式会社エス・ティ・ジャパンでセールスエンジニアとして、西日本を飛び回る日々を過ごしています。気が

在学生だより

私の学生生活

農業生産学科
植物感測制御工学研究室四回生
佐藤 祥子

私は今、トマトサビダニに
関する研究をしています。ト
マトサビダニは植物の葉を枯
死させる植物害虫です。栽培
種でのトマトサビダニに対す
る抵抗性品種はまだありませ
ん。しかし、一度サビダニに
感染しているトマトでもその
新芽は、その他の葉に比べサ
ビダニに対して比較的強いよ
うです。そこでトマトの新芽
に注目しようといった条件でサ
ビダニに対して抵抗性が現れ
るのかを調べています。

私の研究は、外の温室での
作業が殆どなので、夏はとて
も暑く少し作業しただけでく
たくたです。しかし、この研
究はまだまだ分からないこと
が沢山あるので、少し何か変
化があっただけでもおもしろ
く感じられるところが実験を
していて楽しいところです。
暑い、暑いと言いつつも外
での作業は色々な経験ができ
て面白いです。こんなに日に
焼けることも、大量のトマト
を育てることも、たまに水浴
びして遊ぶことも今ぐらいい
かできないことだと思ってい
ます。

充実した学生生活

水産学科
水族環境学研究室四回生
中西 健

私は海や魚が好きだったた
め近畿大学農学部水産学科に
入学しました。クラブは水産
実習研究会に所属し、部員全
員で川や海に行き採集した魚
を展示会で展示をしました。



私は展示会の実行委員を務め、
漁協への採集許可申請をはじめ
とする運営に力を注ぎました。
多い時は2日間で2017人
の方に魚の魅力や海や川の環
境を伝えることができ、とて
も達成感を得ることができま
した。クラブとは別にブライ
ベートでも大好きな海に行き
充実した日々を今でも送って
います。

私は卒業研究で、干潟の浄
化機能を研究しています。
2ヶ月に一度和歌山県白浜町
にある干潟へ行き、干潟の堆
積物やカネなどの巣穴周辺の
泥を持ちかえり干潟の浄化機
能を調べています。実際に研
究するサンプルを自ら採集し
て解析するのでとてもやり
がいがあります。またデータ
が集まるといろんな考察がで
き、先生や同級生と意見を交
わすことが楽しいです。

就職活動も無事に終えるこ
とができ、第一志望の山崎製
パン株式会社から内定をい
ただきました。今年度から就
職活動の開始が2ヶ月遅く
なっており、私は12月から就
職活動を始めました。就活で
は特に企業勉強に力を注ぎま
した。面接ではクラブのこと
を中心に自分をアピールしま
した。就活を終えた今感じる
ことは、自分に自信を持ち、
本当に働きたい会社を受ける
ことが大事だということです。
この4年間で培った経験は
とても貴重であり、この培っ
た経験を今後社会で活かせる
ように精進していきたいと思
います。

理想の社会人へ向けて

応用生命化学科
食品微生物工学研究室四回生
細川 貴弘

22年間。この時間のうち4
年間は農学部で過ごすこと
今までの人生の中で一番充実
したのになりました。最初
は何もかも初めての体験で、
不安しかありませんでしたが、
多くのことを学べました。
サークル活動では、テニス
を通して人をまとめることの
難しさを学びました。その分
みんなと様々な経験を共有で
きた時は、一人で何かをした
ときよりも何倍も良い思い出
になりました。

自分の選んだ道

食品栄養学科
栄養機能学研究室四回生
松本 千恵美

私の実家は兼業農家で、米
や野菜を収穫して食べるとい
う環境で育ったこともあり、
幼い頃から食べ物に関心があ
りました。進路を決める際、
食習慣がもたらす生活習慣病
の予防・改善に対する食品の
効果に興味をもっていたので
管理栄養士養成課程を専攻し
ました。

私は入学当時、栄養士に求
められるのは食品の成分やそ
の効能についての知識だと
思っていました。が、人体構造
や物質代謝などの栄養学全般
を深く学んでいくうちに、疾
病の予防や回復は栄養面から
サポートすることができると
分かりました。さらに私は卒
業研究を通して、自分で調べ、
考え、答えを追求することに
面白さを感じています。これ
らの経験から、私は日々進歩

里山の魅力を伝えたい

環境学科
水圏生態学研究室四回生
松尾 扶美

私は里山インストラクター
として、農学部キャンパスの
里山の魅力を学内外の人に伝
える活動をしています。里山
観察会は里山学連続講座と併
せて年に5回行われ、その時
期に見ごろを迎えるキャンパ
ス内の生き物を紹介していま
す。1月には草陰や葉の裏で
越冬する昆虫を探し、5月に
は4種類の野イチゴの食べ比
べ、7月には魚類調査の体験
をしてもらったり学内の池に



自生するハッカを使ったお茶
を飲んでもらったりしました。
実際に触れたり嗅いだり味
わたりと五感を使うことで、
身近にたくさんある楽しいも
のを知ってもらえれば、多く
の人たちが私たちの生活を支
えてくれている自然を気にか
けてくれたら、と思いつなが
り活動しています。

私は、地域固有の生き物が
たくさんいるような日本の原
風景を守っていきたくないと考
えています。現在は卒業研究と
して、従来のメダカと新種記
載されたメダカの外見的特徴
を比較しています。地域ごと
の自分の住む地域の素晴らし
さを誰もが知っていて、子ど
もたちが家の近くにある本来
の自然の中で伸び伸びと遊べ
るような地域をつくるため、
さらに勉強を重ねていきたく
と思っています。

「経験を生かして前向きに」

バイオサイエンス学科
エコメリアル研究室四回生
久保 憲太郎

大学の4年間も早いもの
で、残り半年になりました。
今思えばクラブ活動、農学部
祭実行委員会、研究室、アル
バイト等、所属した先々で先
輩や同期、後輩にすこく恵ま
れていました。その中でクラ
ブ活動と実行委員会で出会っ
た先輩方には特に感謝してい
て、クラブに所属していなけ
れば、今の自分は無かったと
思っています。結果、色々な
人と出会えたおかげで、大学
生活は自分を一回り大きくさ
せてくれたものになりました。
さて、今は卒業研究で忙し
い中、少しばかり将来につ
いて不安や期待が頭をよぎる事
もあります。しかし将来がど
うであれ、いつも心に置いて
おきたい言葉があります。
"You'll never walk alone"
まり、「君(＝自分)は一人
じゃない」という言葉です。
自分は今まで色々な人と出会
い成長してきました。そして
これからも同じように成長し
ていこうと思います。だからこ
その言葉を胸に、驕らず、
前向きに諦めない心でこれか
らを歩みたいと思います。



Enjoy Thai
カフェスタイル空間で
手軽に本場タイ料理を楽しんでいただくお店
“エンジョイタイ”

ランチ 11:30~14:00
ディナー 17:30~23:00 (L.O. 22:00)

住所: 〒540-0036 大阪市船越町1-2-9 1F
電話: 06-6809-7512 Fax: 06-6809-7513
HP: <http://enjoythai.gourmet.coocan.jp/>
Mail: enjoythai@mbr.nifty.com
Facebook: Enjoy Thai Twitter: EnjoyThai77
代表者: 村上 仁伸 (農学部国際資源管理学科1997年卒業)

近畿大学水産研究所の技が可能にした品質へのこだわり
~安心と美味しさを食卓に~

アーマリン近大は
安心・安全・美味しい魚を
提供します

〒649-2211
和歌山県西牟婁郡白浜町1番地の5
TEL: 0739-42-4116
FAX: 0739-42-2600
Mail: shopping@a-marine.co.jp
URL: <http://www.a-marine.co.jp>

※好評のくえんセットも多数ご用意しております。

あなたの企業のお手伝い
photo shop **イナダカメラ**

21世紀へ
ニューメディア
プリント

服部川店 八尾市服部川7丁目153
TEL 0729(41)0909/FAX 0729(41)0934
携帯 09037290909
今里店 大阪市東成区大今里4丁目21-18
TEL/FAX 06(6974)0919
代表者 稲田 忠明(農学科 昭和43年度卒)

TUBE OPEN
海獣たちのアスレチックフィールド

城崎マリンワールド
<http://marineworld.hiyoriyama.co.jp>

大学院生だより

楽しい学生生活
農業生産科学専攻博士前期課程
植物感染制御工学研究室
瀬古口 大

私は、大学院1年です。何故、近畿大学農学部に来たのか、私の祖父が農家で、よく播種や収穫を手伝っており、大学の農学部ではこんなことをして、害虫の防除や収穫量を増やしているのに興味を持ってからです。そして、私の研究室には、ハウス温室に取り付ける網戸に静電気を付けることで、害虫をハウス内に侵入させない。静電場スクリーンという機材があります。その静電場スクリーンは害虫を捕獲、忌避(避けさせる)するのですが、何故そういった現象が起こるのかが分かっています。卒業研究として、虫が何故捕獲されるのか?その原理解析を研究しました。私は文系出身で、静電気のことなんか、ほとんど知りませんでした。先生や先輩方もとても優しく、いろいろなることを指導してください、楽しく実験ができました。そして、忌避ではどんな原理が作用しているのか?解明したいと思い、大学院に進みました。現在では、その忌避原理について研究しています。大学生活は今までの学校生活で最高に楽しいです。信頼できる頼もしい先生方、先輩・友人・後輩達、たくさんの人に出会い、支えていただいております。本当に楽しいです。是非、農学部へ。



はクロマグロ養殖を学ぶためでした。だから研究室は迷わず水産増殖学研究室を選びました。研究テーマがクロマグロの初期減耗対策に決まり、奈良や大島で実験しています。慣れない作業に翻弄されながらも必死に取り組み、クロマグロの独特な生態や特徴が面白くなってのめり込みました。そして、もつと学び、自分の研究を完成させたいと思うようになり、大学院に進学しました。

は見られない動植物が多く見受けられます。これは微生物に関しても同様で、自然からはユニークな微生物が多く得られます。また、例えば山の土壌から微生物を取る時でも木の根元と枯れ葉の下、夏と冬、あるいは晴天と雨天の日の土壌からは全く違う菌が取れます。目的の微生物が、どんな環境を好みそうかを考えて、実際にその場所までサンプルを取りに行くのも私の研究の一つです。

実験技術も乏しい状態でしたが、先生方の助言や家族の協力、先輩方の活躍振りを見守り、決意することができました。また、研究室では社会で必要とされることも多く学べます。例えばわたしは、口下手で人前に立つことが苦手ですが、ゼミ発表での先生、先輩方の指導により、プレゼンテーション能力が確実に上がりました。現在は、研究をさらに推し進め、後輩達に対する指導も行っています。指導する側に立つてから学ぶことも多く、社会に出る前にもうひと回り成長できるように、後輩達と切磋琢磨しながら日々精進しています。

はまるで違う環境に慣れるまでかなり戸惑いましたが、自分の研究や勉強に集中して取り組むことができました。このように貴重で多様な機会を与えてくれた皆様に感謝しています。現在は、ベナンから持ち帰った土壌と植物体の分析をしています。

幸い、インドネシアでの多様性研究は優秀な先輩が引き継いでくれ、新しい視点による理論的な解決もされつつあります。大学院生活もあと少しで終わってしまうので、後

大学院では今までの知識と経験を活かし、学部生の頃よりも効率よく実験が出来ました。また、周囲を見渡す余裕ができた4年生にも指導が出来ました。国内外の学会で自分の研究を発表する機会も増え、自信とやりがいを感じてとても充実しています。

今年11月には、パナマに出向く研究もできそうと、今からワクワクしています。思い残すことが無いように精一杯研究を行い、マグロ類の養殖と資源保護に役立つ成果を残したいと思っています。

研究室内で試験管と見つめ合うだけでなく、自然の中に身を投じるこの研究に、私は非常にやりがいを感じています。今後も、より深く研究を行い、多くの結果を残せるよう頑張りたいと思います。

私は、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

悔のないように後輩と協力しつつ研究を頑張りたいと思います。

また、同時に二度目の海外でもあったため、無事目的地に着くまで終始、緊張に包まれていました。学会会場である済州島・西帰浦(ソギポ)は、年間400万人以上が訪れる国際的な観光地で、リゾートとして人気が高い場所です。今回の国際学会は、アジアの国々を中心としているため、韓国・中国の参加者が非常に多く、次いで日本、オーストラリアというようなメンバー構成でした。更に、そこにアメリカやヨーロッパの海外での学会ではあり

は、タイの古都であり、街が山裾に広がり雰囲気的には奈良に近い都市であるが、海外からの観光客や退職後の移住者などが多く国際色豊かである。また、物価も安く、自然が豊かで温泉もあり、犯罪も少ないため日本人の退職後の移住先としても人気がある。

暮らして始めて感じたのは、タイ社会には、王室、年寄りや先人への尊敬、両親や家族大切に思う心など日本人が忘れてかけている古くからの伝統が色濃く残っているということであった。また、朝8時と夕方6時にはテレビ・ラジオや公共施設では必ず国歌が流れ、競技場などではその時に

終わってみると、あつという間の5ヶ月余りであったが、タイ語も含めて多くのことを学ぶことができたと感じる。今後の一層の交流促進に繋げていければ良いと考えている。

自然の中での研究
応用生命科学専攻博士前期課程
応用微生物学研究室
梅本 宏樹

わたしは、本年食品栄養学専攻を卒業し、応用生命科学専攻の修士課程に進学しました。研究室に配属されるまでは、福祉施設で管理栄養士として働こうと考えていましたが、卒業研究テーマの「胎児期の低栄養暴露による糖代謝異常の予防」にとても興味を持ち、進学を考えるようになりました。研究も始まったばかりで、

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

マグロ類の魅力

水産学専攻博士前期課程
水産増殖学研究室
今川 貴之

私が近畿大学に入学したの

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と

わたしは、地球環境問題の解決を目指し、生態系の機能を修復、創生する調査研究で国際的に活躍している生態工学研究室の研究に感銘を受けたこの研究室を選びました。大学4年生の時には、インドネシア熱帯雨林の樹種多様性の機構の解明に関する研究を行っていました。当初は大学院でもこのテーマを続ける予定でしたが、アフリカに行つてより実践的な課題に取り組みたいという気持ちから、西アフリカ強風化土壌の稲作におけるケイ酸施肥効果を研究し、アフリカの食糧増産に貢献したいと考えています。研究を始めて約8ヶ月間、ベナン共和国にあるAfricaRiceCenterに受け入れてもらい現地調査を行いました。最初は、日本と



ロンドン留学記
水産学専攻 水産利用学研究室
安藤 正史

平成23年4月より1年間、ロンドン郊外にあるキングストン大学に留学しました。当大学は学生数約3万人を有する大きな大学であり、近年では入学志願者数が英国で最も多い大学とのことです。当地では欧州食品安全機関の外部評価委員会議長でもあるノー

タイ・チェンマイで
研究休暇
農学部・環境管理学科
国際開発・環境学研究室
八丁 信正

近畿大学の交流協定大学でもあり、農学部同士でも20年近い交流の歴史のあるタイ国チェンマイ大学農学部で、研究休暇(4月1日～9月8日)を過ごした。チェンマイ

は、タイの古都であり、街が山裾に広がり雰囲気的には奈良に近い都市であるが、海外からの観光客や退職後の移住者などが多く国際色豊かである。また、物価も安く、自然が豊かで温泉もあり、犯罪も少ないため日本人の退職後の移住先としても人気がある。

暮らして始めて感じたのは、タイ社会には、王室、年寄りや先人への尊敬、両親や家族大切に思う心など日本人が忘れてかけている古くからの伝統が色濃く残っているということであった。また、朝8時と夕方6時にはテレビ・ラジオや公共施設では必ず国歌が流れ、競技場などではその時に

終わってみると、あつという間の5ヶ月余りであったが、タイ語も含めて多くのことを学ぶことができたと感じる。今後の一層の交流促進に繋げていければ良いと考えている。



ソクラン (学部長(中央)とTu先生(左))



荒地への桜の植樹活動

研究活動

平成20年度に、日本学術復興会「グローバルCOEプログラム」に採用され、平成24年度まで「クロママグロ等の養殖科学の国際教育研究拠点」を推進しています。
平成23年度に、5年間の予定で文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」



文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」[環境調和を志向した革新的植物アグリバイオ技術の統合型研究拠点の形成]の平成23年度報告会

教員・学生の受賞

応用生命化学科 財満信宏 講師が「日本農芸化学会2012年度大会」においてトピックス賞を受賞しました。
応用生命化学科専攻 金井康高君が「第51回 日本栄養・食糧学会 近畿支部大会」において若手奨励賞を受賞しました。



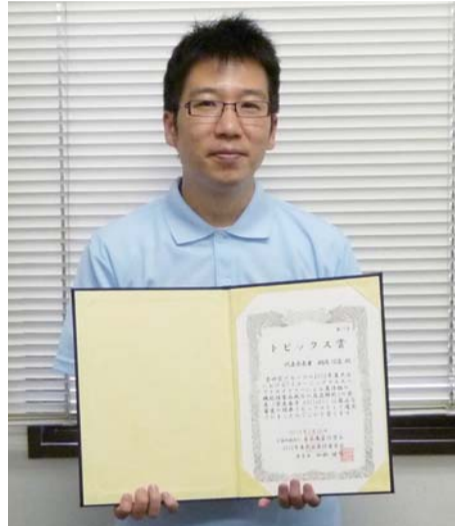
バイオサイエンス専攻 新家粧子さんが「26回キチン・キトサンシンポジウム」においてポスター賞を受賞しました。



金井康高君 (右)



北尾麻希子さん



財満信宏 講師



2012年度 近畿大学農学部 春の公開講座 in 東大寺



平成24年11月3日(土)14時から、食品栄養学科卒業生の会「KINKAN会」イベントを開催しました。近年、私たちが卒業生の多くが栄養士として現場で働く中で、社会情勢の移り変わりを直に体感して、栄養士の役割は大

第3回KINKAN会イベントを終えて

第3回イベント企画代表・4期生 八木 万希子



きく変化してきているように感じていました。そこで、今回のイベントのテーマを「今後求められる栄養士像」と題し、討議形式にて各分野の現状を共有し、課題と対策を見出すきっかけになればと思います。大変重く、難しいテーマであるにも関わらず、各運営委員の粘り強い努力のおかげで食育・行政・医療・療養・福祉の5つの分野を設定することができました。現状の現場での課題・今後必要な知識や技術・他職域の栄養士に求めること・卒業生どうしでできることは何か等について討議いただきました。それぞれ分野は異なるものの、「食」を通しての関わりでは繋がる部分が多く、情報共有することで自身の業務へ活かせる可能性が見出されました。また、KINKAN会の活動そのものが地域連携の小モデル化となり得るのではないかと、の展望もありました。

勇気を出してパネラーとして参加いただいた各期の皆さん、難しい座長を引き受けていただいた5期生さん、本当にありがとうございました。皆さんや各運営委員の先輩・

後輩、先生方の協力を得て、今回初めての試みであったパネルディスカッションはとて有意義なものになったと思います。

今後もKINKAN会活動を通して、在学生・卒業生が繋がりをもち、各々がそれを自信にかえて力を発揮できるように企画・運営を考えていけたらと思います。



平成23年度近畿大学農学部緑友会事業報告

Table with columns: 月日 (Date), 項目 (Item), 場所 (Location). It lists various activities and their locations throughout the year.

平成23年度近畿大学農学部緑友会(卒業生部会)決算

Financial statement table with columns: 収入の部 (Income), 支出の部 (Expenditure), and 合計 (Total). It details the financial status of the alumni association.

会計幹事 吉川賢太郎 会計幹事 松田 克礼
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。
平成24年 3月31日

監事 小林 徹
監事 武田 徹

訃報

食品栄養学科 成川輝明教授が、平成二十四年十月に逝去されました。御冥福をお祈りします。